

**【図書の場合】** 著者氏名 + (発行年) + 『図書名』 + 出版地：出版社

〈例〉橋本修・安部朋世・福嶋健伸 (2008) 『大学生のための日本語表現トレーニング—スキルアップ編—』東京：三省堂

〈例〉Inoue, Kazuko (1969) *A Study of Japanese Syntax*. The Hague : Mouton.

**【論文集に掲載された論文の場合】** 著者氏名 + (発行年) + 「論文タイトル」 + 論文集編者名 (編) + 『論文集タイトル』 + 掲載ページ + 出版地：出版社

上記の例を押さえた上で、【課題3】に取り組んで下さい。 □▷ 35ページへ

最後に引用の仕方について学びましょう。引用の仕方は、大きく分けて2通りの方法があります。1つは、「」や“”、あるいは2字下げ等を行い、当該の文章をそのまま引用する方法です。なお、引用する側が注記を付け加える場合は、〈引用例1〉のように () の中に、その旨を明記します。

【引用例1】 福嶋 (1997) でも、事実上、「(筆者注：質形容詞の過去形と非過去形について) 具体的な時間にしばられているか、いないか (p.121)」という観点から考察が行われている。

もう1つは、次のように引用符号等を用いない方法です。

【引用例2】 福嶋 (1997) でも、事実上、質形容詞の過去形と非過去形について、具体的な時間にしばられているかどうかを問題として考察を進めている。

どの方法がよいかは、分野や引用文の長さ等にもよりますが、いずれにせよ、引用する必要がある文献は、必ず引用して下さい。では、【課題4】に取り組んでみましょう。 □▷ 36ページへ

※ レポートの書き方について更に詳しく知りたい人には木下1981 (参考文献欄を参照) 等がお勧めです。

□▷ 37ページへ

\*1 雑誌発行団体 (学会名等) は省く場合も多いようです。

本章では、効果的なプレゼンテーションを行うために、必要な情報の収集・レジュメの作成・プレゼンテーションの構成の3点について学びます。パワーポイント等のプレゼンテーションソフトによるスライド作成のポイントについては、14章で学びます。

まずは、プレゼンテーションを成功させるために、準備としてどのような情報を得る必要があるかを考えてみましょう。ナビゲート1を参考にして、【課題1】の1-1、1-2に取り組んで下さい。

### 🎯 取り組んでみよう【課題1】

〈設定：大辞林大学の早川さんは、三省大学で行われる「大学生と環境問題」というシンポジウムで、大辞林大学の学生代表として、大辞林大学で行った環境に関する意識調査について発表することになりました。〉

1-1 発表内容や発表の仕方を決めるために、必ずチェックしておかなければならない項目があります。早川さんになったつもりでチェックリストを作成して下さい。

1-2 1-1で挙げたチェック点をグループ分けし、プレゼンテーションにおいて事前に確認する必要がある項目をまとめて下さい。

### …➡ ナビゲート1

発表の内容を聞き手にしっかり伝えるために、事前の準備でどのような点に注意する必要があるでしょうか。また、主催者側に確認する必要があることは何ですか。思いついたことをできるだけ多く箇条書きにしてみましょう。

□▷ 37ページへ

次に、プレゼンテーションでよく用いられる資料であるレジュメについて、作成のポイントを確認してみましょう。次の〈レジュメ例〉を見て、【課題2】に